

数唱や指差しを活用することで、順序や位置関係を数で表すことの指導 ～絵カードや数字カードを活用した事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2402
学習グループ の実態	- 小学部5学年（2名）。 1～10までの数を数唱したり、数字カードを順番に並べたりすることができる。 - 教師の「いくつありますか？」という発問に対して、具体物やイラストを数えて答えることができる。		
単元(題材)名	『なんばんめ』		
学習指導要領 の内容	算数科/小学部2段階 A数と計算 ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動 (ア)㊦ (イ)㊧		
単元(題材)の 目 標	知識及び技能 数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いることができる。 【Aア(ア)㊦】	思考力・判断力・表現力等 数詞と文字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。 【Aア(イ)㊧】	学びに向かう力・人間性等 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。 【小学部2段階A目標ウ】
単元(題材)の 計 画	総時数 10時間 1 順序数と集合数の意味の違いについて確認する。(2時間) 2 1～10までの順位をつける。(4時間) 3 順序や位置に着目しながら順序数を考える。(4時間)		
指導の実際	1について、学校生活で経験する順序や位置に関する場面を取り上げ、児童にとって身近なキャラクターの絵カードを並べて提示した。 「全員で何人いますか？」という発問に対して、カードを指差ししながら数えて、正しく回答することができた。 「〇〇は何番目ですか？」という発問には、最初は全部の人数を答えていたが、答え方を確認し繰り返すことで、発問されたキャラクターのところで指差しを止めて、正しく回答することができた。 3について、5つの宝箱を並べて、その1つに児童が好きなキャラクターの絵カードを入れ、目印（☆や○など）から数えて何番目に入っているかを答えさせたり、教師の指示した場所（☆から～番目の宝箱）を聞いて選んだりする活動を設定した。 活動していく中で、目印から何番目の宝箱に入っているのかや、教師の指示した宝箱がどれかをを選ぶことができた。 5までの範囲であれば、数字カードがなくても正しく答えることができた。10までの範囲でたずねた際には、数字カードを手掛かりにすることで、正しく答えることができた。		

